

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

1 手続の流れ等の説明及び公表の構成

(1) 対象事件・合議体の構成

ア 対象事件

裁判員裁判の対象となる事件は、法定刑に死刑、無期懲役・禁錮を含む罪に係る事件と、法定合議事件のうち故意の犯罪行為で人を死亡させた事件である(法2条1項)。

ただし、裁判員やその親族等に危害が加えられるなどのおそれがあり、裁判員の職務の遂行ができないような事情がある場合には、決定により裁判員裁判対象事件から除外され、裁判官のみで構成する合議体で取り扱う(除外決定、法3条1項)。

イ 合議体の構成

裁判員裁判対象事件を取り扱う**合議体の構成**は、原則的には裁判官3人と裁判員6人であるが、例外的に、公訴事実と争いがなく、事件の内容等に照らし適当であり、当事者にも異議がない事件については、裁判官1人と裁判員4人の合議体で審理・裁判することができる(法2条2項、3項)。

(2) 裁判員裁判における訴訟手続の流れ

ア 公判前整理手続

刑事訴訟手続は、検察官が、裁判所に対し、被告人の処罰を求めて公訴提起(起訴)することにより開始される。裁判員裁判対象事件が起訴された場合、裁判所は、**公判前整理手続**に付さなければならない(法49条)。

公判前整理手続では、当事者による主張の明示や証拠の開示等を通じ、争点及び証拠の整理を行うほか、公判の審理計画を策定し、公判期日を定めるなど公判手続の進行上必要な事項を定める。そして、裁判所は、当事者との間で争点及び証拠の整理の結果を確認し、公判前整理手続を終了させる。

なお、裁判員が加わって審理が開始された後に、鑑定のために長期間審理が中断するような事態は望ましくないことから、裁判員裁判対象事件の公判前整理手続で鑑定を行うことが決定された場合、鑑定結果の報告までに相当期間を要するときは、公判開始前に、鑑定の経過及び結果の報告を除く鑑定の手続を行うことができる(第1回公判期日**前の鑑定**、法50条1項)。

審理期間と対比した公判前整理手続の期間・期日回数の状況は、図表3.3及び図表

35ないし図表40のとおりである。

イ 公判審理

(ア) 公判手続は、原則として公開の法廷において開く公判期日において行う。公判期日の指定に当たっては、できる限り連日開廷し、継続して審理を行うようにしなければならない（刑事訴訟法281条の6）。公判の**開廷回数・実審理期間**の状況は、図表42ないし図表45のとおりである。

公判期日においては、まず、人定質問や検察官の起訴状朗読、被告人及び弁護人の被告事件についての陳述等が行われる（冒頭手続）。

続いて**証拠調べ手続**に入り、検察官や弁護人が証拠により証明しようとする事実を述べる冒頭陳述を行い、裁判所が公判前整理手続の結果を明らかにした上、証拠物や証拠書類の取調べや**証人尋問**等が行われる。また、被告人には黙秘権があるが、被告人が自ら供述する場合は**被告人質問**も行われ、その結果も証拠となる。

証拠調べ手続が終了すると、弁論手続が行われ、検察官や弁護人が事実認定や法律の適用に関する意見等を述べ（検察官の論告・求刑、弁護人の弁論）、最後に被告人に対しても事件についての意見を述べる機会が与えられ（最終陳述）、審理を終結する（結審）。

取り調べた証拠数・証人数、証人尋問時間・被告人質問時間の平均や分布の状況は、図表46ないし図表57のとおりである。

(イ) 同一の被告人に対し、複数の事件が起訴された場合、弁論の併合（**客観的併合**）がされることがある。客観的併合がされている事件について、公訴事実の数別に、開廷回数・総審理時間や証拠調べの状況を図表58ないし図表61で示した。

他方、同一の被告人に対し、複数の事件が起訴され、弁論を併合したままだとその審理が長期に及ぶ場合などについて、裁判員の負担を軽減しながらも、刑の量定も含め適正な結論が得られるように、**区分審理**の制度が設けられた（法71条以下）。これは、併合した事件のうち一部の事件を区分し（区分審理決定）、順次、区分した事件ごとに審理を担当する裁判員を選任して審理し、有罪・無罪に関して部分判決を行い、これを踏まえて、新たに選任された裁判員の加わった合議体が残りの事件を審理した上、併合した事件全体について刑の言渡しを含めた終局判決を行うというものである。なお、区分事件に含まれる被告事件の全部が裁判員裁判対象事件

に該当しないときなど、裁判所の決定によって、構成裁判官のみで構成する合議体で、その区分事件の審理及び裁判を行う場合もある（法74条）。

区分審理決定のあった事件の審判の数ごとの内訳、区分審理決定の有無別にみた開廷回数及び開廷時間の平均や分布の状況は、図表62ないし図表64のとおりである。

ウ 評議

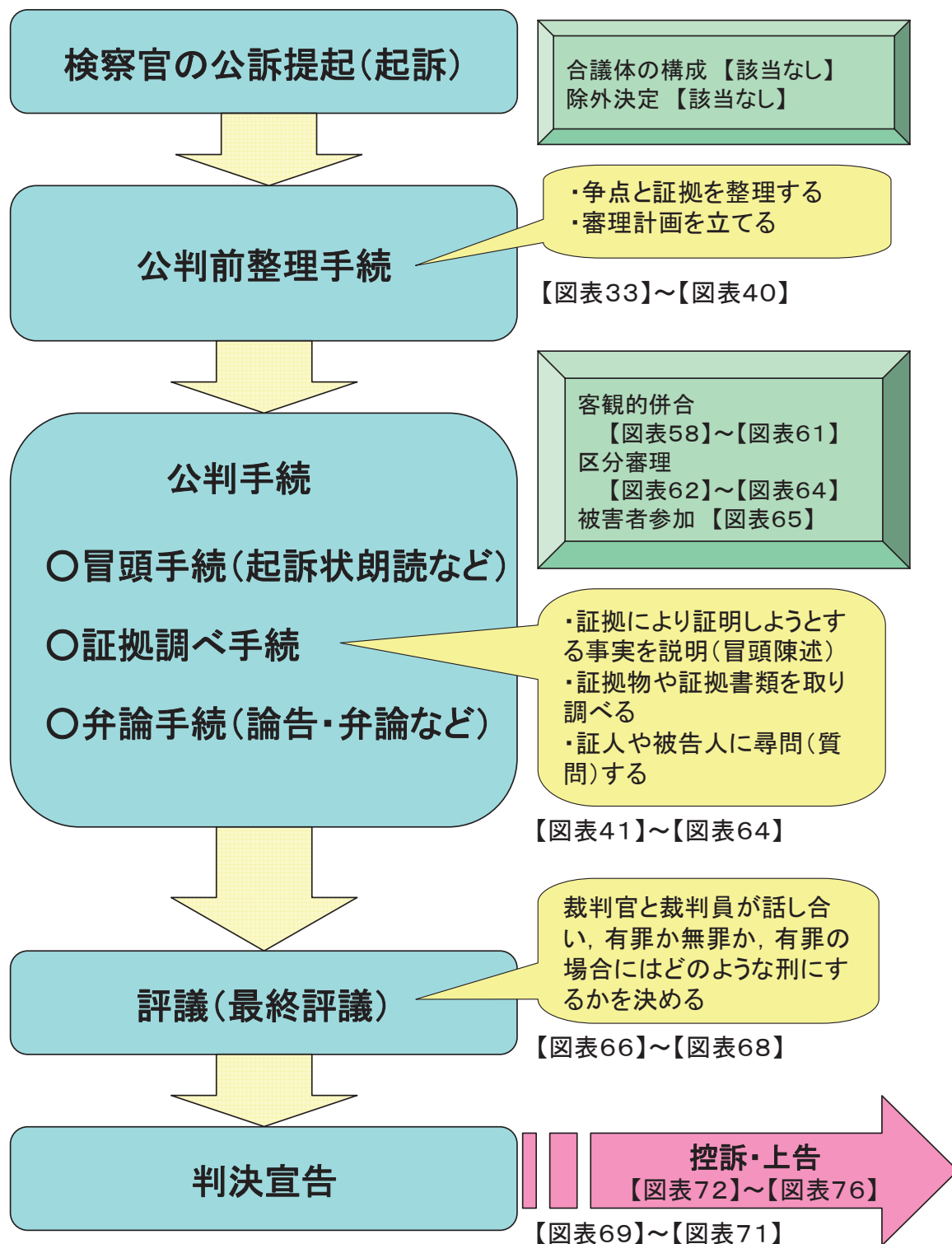
公判審理が終結すると、合議体を構成する裁判官と裁判員は、**評議**を行い、有罪か無罪か、有罪の場合にはどのような刑にするかを議論して決める。なお、審理の合間にも、随時評議が行われることがあり（中間評議）、それとの対比において、上記のような結審後に行われる評議は最終評議と呼ばれる。最終評議における評議時間の平均や分布の状況は図表66ないし図表68のとおりである。

エ 裁判・控訴・上告

評議において有罪・無罪、有罪の場合には量刑につき結論が決まると、判決が宣告され、事件は終局する。第一審の判決に不服がある当事者は、高等裁判所に控訴することができ、控訴審判決に不服がある当事者は、最高裁判所に上告することができる。

裁判員裁判の第一審の裁判結果や、控訴理由、控訴審の結果、上告理由、上告審の結果の状況等は、図表69ないし図表76のとおりである。

オ なお、公判手続（公判前整理手続を含む。）の流れをフローチャートで示すと、以下のとおりである。



(3) クロス集計の視点

公判手続（公判前整理手続を含む。）については、自白事件と否認事件で運用の在り方が異なることを踏まえ、自白・否認別のクロス集計を基本としつつ、その他の様々なクロス集計も織り込みながら、情報を提供することとした。このうち、公判前整理手続に関しては、期間・期日回数について、審理期間全体との対比も示しつつ、平均値や分布等の情報を盛り込んだ。また、裁判員裁判以外の裁判との対比のため、地裁通常第一審事件における審理期間や開廷回数の推移も参考として示した。

2 概況

平成24年の裁判員裁判対象事件の公判手続に関する概況は、図表29のとおりである。
各データの詳細は右欄外に記載した各図表を参照されたい。

図表29 裁判員裁判対象事件の公判手続概況データ

事項 (平均)		区分			
		総数	自白	否認	
平均審理期間	受理～第1回	8.4(月)	6.4(月)	10.7(月)	(注) 図表41参照
	受理～終局	9.3(月)	7.2(月)	11.7(月)	
平均実審理期間		7.4(日)	5.0(日)	10.1(日)	(注) 図表42参照
平均開廷回数		4.5(回)	3.7(回)	5.5(回)	(注) 図表44参照
平均公判前整理手続期間		7.0(月)	5.2(月)	9.1(月)	(注) 図表37参照
平均公判前整理手続期日回数		5.5(回)	4.0(回)	7.2(回)	(注) 図表33参照
平均評議時間		619.8(分)	475.2(分)	787.7(分)	(注) 図表66参照
平均取調べ証拠数		30.8(個)	25.5(個)	36.8(個)	(注) 図表46参照
平均取調べ証人数		3.0(人)	1.8(人)	4.3(人)	(注) 図表47参照
平均証人尋問時間		215.0(分)	105.4(分)	325.2(分)	(注) 図表49参照
平均被告人質問時間		176.7(分)	141.7(分)	216.6(分)	(注) 図表51参照
平均開廷時間		655.4(分)	438.9(分)	901.8(分)	(注) 図表55参照

(注) 刑事通常第一審事件票及び刑事局への個別報告による。

3 審理

(1) 合議体の構成・除外決定

合議体は、すべての事件で裁判官3人と裁判員6人で構成された。また、裁判員法3条1項の除外決定がされた人員は、平成23年中に終局した事件においては2人であったが、平成24年に終局した事件においては0人であった。

図表30 合議体の構成別の判決人員（罪名別）
（裁判官1人と裁判員4人の合議体なし）

図表31 合議体の構成別の判決人員（実審理期間別）
（裁判官1人と裁判員4人の合議体なし）

図表32 罪名別の除外決定がされた判決人員
（該当なし）

(2) 公判前整理手続

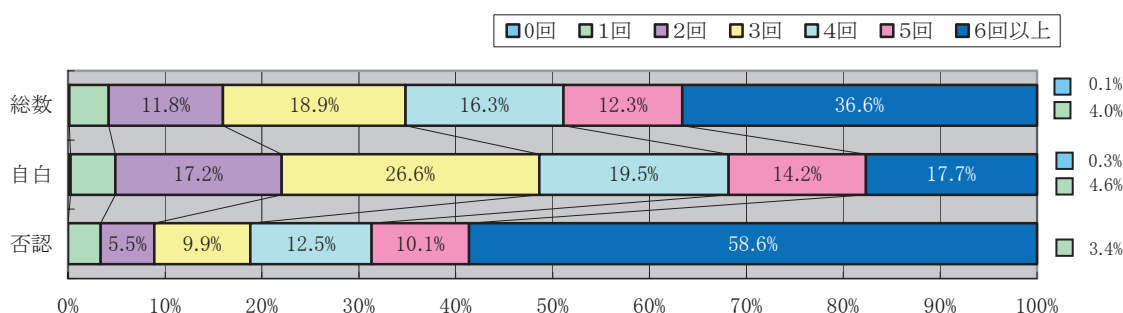
公判前整理手続期日回数の平均及び分布状況（自白・否認別）は、図表33のとおりである。同表には、平成18年から平成20年までの間に公判前整理手続を実施した裁判員裁判対象罪名の事件における自白・否認別の公判前整理手続期日回数の平均及び分布状況のデータを参考添付した。

なお、公判前整理手続において鑑定の手続を行う旨の決定（法50条。以下、「第1回公判期日前の鑑定」という。）をして判決に至った人員を罪名別にみると、図表34のとおりである。

図表33 公判前整理手続期日回数別の判決人員の分布及び平均公判前整理手続期日回数（自白否認別）

	判決人員	公判前整理手続期日回数							平均公判前整理手続期日回数(回)
		0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	
総数	(100.0) 1,484	(0.1) 2	(4.0) 60	(11.8) 175	(18.9) 280	(16.3) 242	(12.3) 182	(36.6) 543	5.5
自白	(100.0) 798	(0.3) 2	(4.6) 37	(17.2) 137	(26.6) 212	(19.5) 156	(14.2) 113	(17.7) 141	4.0
否認	(100.0) 686	-	(3.4) 23	(5.5) 38	(9.9) 68	(12.5) 86	(10.1) 69	(58.6) 402	7.2

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
2 () は判決人員に対する割合 (%) である。



第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

(参考) 裁判員法施行前の地裁刑事通常第一審事件における公判前整理手続を実施した裁判員裁判対象罪名の事件の公判前整理手続期日回数別の判決人員の分布及び平均公判前整理手続期日回数(自白否認別) (平成18年～20年累計)

	判決人員	公 判 前 整 理 手 続 期 日 回 数							平均公判前整理手続期日回数(回)
		0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	
総数	3,080	94	1,160	853	437	248	135	153	2.3
自白	1,783	84	890	511	180	68	32	18	1.7
否認	1,297	10	270	342	257	180	103	135	3.1

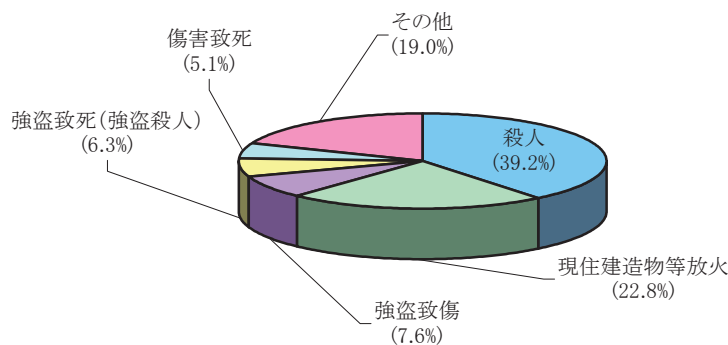
- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 「判決人員」は、有罪人員と無罪人員の合計である。

図表3-4 罪名別の第1回公判期日前の鑑定（法50条）を行った判決人員

	判決人員	鑑定を行った 判決人員
総数	1,500	(5.3) 79
殺人	323	(9.6) 31
現住建造物等放火	134	(13.4) 18
強盗致傷	322	(1.9) 6
強盗致死(強盗殺人)	34	(14.7) 5
傷害致死	180	(2.2) 4
覚せい剤取締法違反	127	(2.4) 3
(準)強制わいせつ致死傷	80	(3.8) 3
(準)強姦致死傷	101	(2.0) 2
偽造通貨行使	24	(8.3) 2
強盗強姦	34	(2.9) 1
危険運転致死	23	(4.3) 1
非現住建造物等放火	1	(100.0) 1
建造物等以外放火	1	(100.0) 1
建造物等延焼	1	(100.0) 1

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
2 () は判決人員に対する割合 (%) である。

第1回公判期日前の鑑定（法50条）を行った人員の罪名別の割合



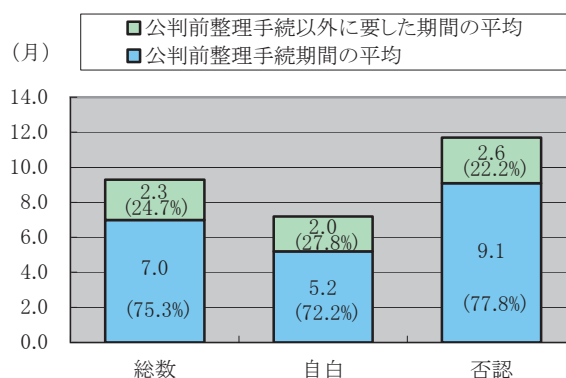
第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

平均審理期間、公判前整理手続期間及び同手続以外の手続に要した期間の平均（自白・否認別、罪名別、第1回公判期日前の鑑定の有無別及び開廷回数別）をみると、図表35ないし図表39のとおりである。公判前整理手続以外の手続に要した期間とは、1)受理から公判前整理手続に付する決定までの期間、2)公判前整理手続終了から第1回公判期日までの期間、3)実審理期間の合計である。それぞれ全審理期間に占める公判前整理手続期間と同手続以外の手続に要した期間の平均を示し、かつ、それぞれの割合をグラフ化したものを添付した。

また、図表35には、平成18年から平成20年までの間の公判前整理手続に付された地裁第一審事件、裁判員裁判対象罪名の事件及び法定合議事件全体の各データを参考添付した。

図表35 自白否認別の平均審理期間及び平均公判前整理手続期間

	平均審理期間(月)	うち公判前整理手続期間の平均(月)	うち公判前整理手続以外に要した期間の平均(月)
総数	9.3	(75.3) 7.0	(24.7) 2.3
自白	7.2	(72.2) 5.2	(27.8) 2.0
否認	11.7	(77.8) 9.1	(22.2) 2.6



(注) 1 刑事通常第一審事件票による。
2 () は平均審理期間に対する割合(%)である。

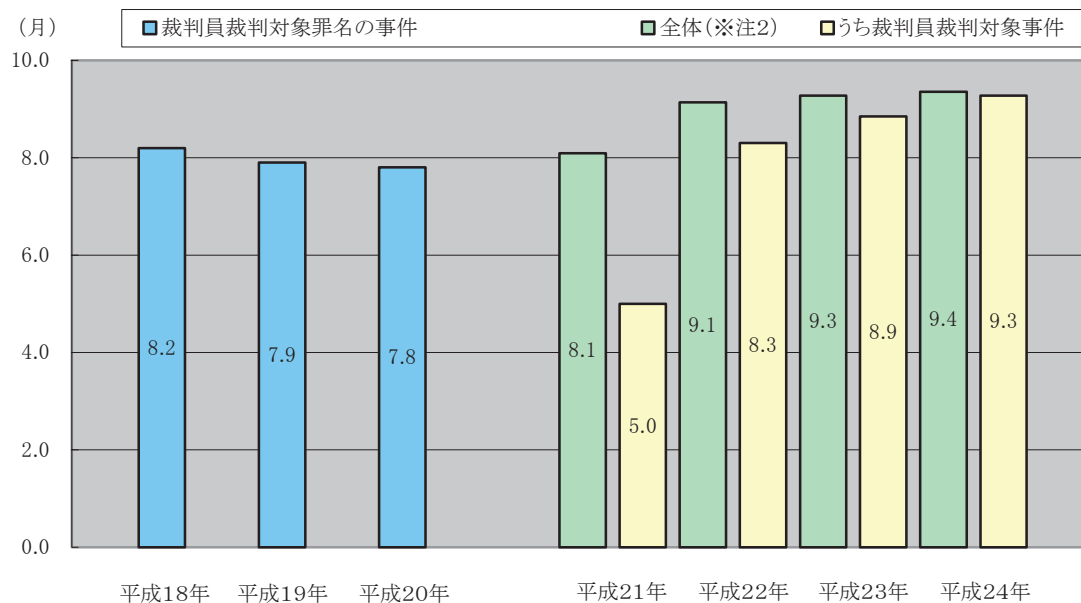
第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

(参考) 地裁刑事通常第一審事件における公判前整理手続を実施した終局事件の自白否認別の平均審理期間及び平均公判前整理手続期間並びに法定合議事件全体の自白否認別の平均審理期間(平成18年～20年累計)

	公判前整理手続に付された通常第一審事件全体			うち裁判員裁判対象罪名の事件			法定合議事件全体
	平均審理期間(月)	うち公判前整理手続期間の平均(月)	うち公判前整理手続以外に要した期間の平均(月)	平均審理期間(月)	うち公判前整理手続期間の平均(月)	うち公判前整理手続以外に要した期間の平均(月)	
総数	6.8	(44.1) 3.0	(55.9) 3.8	6.6	(43.9) 2.9	(56.1) 3.7	6.8
自白	5.3	(45.3) 2.4	(54.7) 2.9	5.3	(45.3) 2.4	(54.7) 2.9	5.2
否認	8.6	(43.0) 3.7	(57.0) 4.9	8.3	(44.6) 3.7	(55.4) 4.6	10.8

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による。
 2 有罪人員(一部無罪を含む。)及び無罪人員を元に算出した。
 3 「法定合議事件全体」には、終局時の罪名が裁判所法26条2項2号に該当する事件を掲げた。
 4 ()は平均審理期間に対する割合(%)である。

(参考) 地裁刑事通常第一審事件における平均審理期間の推移



- (注) 1 公判前整理手続を実施していないものを含む。
 2 裁判員対象罪名の事件は、有罪人員(一部無罪を含む。)及び無罪人員を元に算出した。
 3 「全体」とは、裁判員裁判対象罪名の事件及び裁判員裁判対象事件の総数をいう。

図表36 自白否認別・主要罪名別の平均審理期間及び平均公判前整理手続期間

	総 数			自 白			否 認		
	平均審理 期間(月)	うち公判前 整理手続 期間の平 均(月)	うち公判前 整理手続 以外に要し た期間の平 均(月)	平均審理 期間(月)	うち公判前 整理手続 期間の平 均(月)	うち公判前 整理手続 以外に要し た期間の平 均(月)	平均審理 期間(月)	うち公判前 整理手続 期間の平 均(月)	うち公判前 整理手続 以外に要し た期間の平 均(月)
総数	9.3	(75.3) 7.0	(24.7) 2.3	7.2	(72.2) 5.2	(27.8) 2.0	11.7	(77.8) 9.1	(22.2) 2.6
殺人	9.7	(77.3) 7.5	(22.7) 2.2	7.1	(76.1) 5.4	(23.9) 1.7	12.0	(79.2) 9.5	(20.8) 2.5
強盗致傷	8.5	(75.3) 6.4	(24.7) 2.1	7.5	(72.0) 5.4	(28.0) 2.1	10.1	(78.2) 7.9	(21.8) 2.2
傷害致死	9.1	(79.1) 7.2	(20.9) 1.9	7.3	(72.6) 5.3	(27.4) 2.0	11.4	(83.3) 9.5	(16.7) 1.9
現住建造物等放 火	8.1	(80.2) 6.5	(19.8) 1.6	6.2	(75.8) 4.7	(24.2) 1.5	11.1	(84.7) 9.4	(15.3) 1.7
覚せい剤取締法 違反	10.1	(69.3) 7.0	(30.7) 3.1	7.5	(69.3) 5.2	(30.7) 2.3	11.6	(69.0) 8.0	(31.0) 3.6
(準)強姦致死傷	7.6	(77.6) 5.9	(22.4) 1.7	6.6	(72.7) 4.8	(27.3) 1.8	8.8	(83.0) 7.3	(17.0) 1.5
(準)強制わいせ つ致死傷	6.9	(71.0) 4.9	(29.0) 2.0	6.2	(72.6) 4.5	(27.4) 1.7	9.0	(68.9) 6.2	(31.1) 2.8
麻薬特例法違反	12.3	(53.7) 6.6	(46.3) 5.7	10.7	(43.9) 4.7	(56.1) 6.0	15.0	(70.7) 10.6	(29.3) 4.4
強盗致死(強盗 殺人)	12.9	(74.4) 9.6	(25.6) 3.3	8.7	(77.0) 6.7	(23.0) 2.0	15.6	(73.1) 11.4	(26.9) 4.2
強盗強姦	13.5	(77.0) 10.4	(23.0) 3.1	9.2	(77.2) 7.1	(22.8) 2.1	17.3	(76.9) 13.3	(23.1) 4.0

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による。
 2 ()は平均審理期間に対する割合(%)である。
 3 本表には、判決人員が上位10位までの罪名を挙げた。

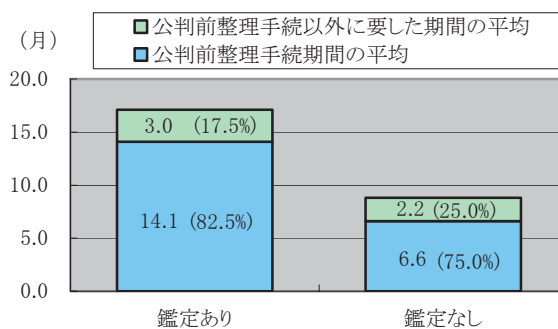
図表37 自白否認別の公判前整理手続期間の分布及び平均公判前整理手続期間

	判決人員	公 判 前 整 理 手 続 期 間															平均公判前整理手続期間(月)	
		15日以内	1月以内	2月以内	3月以内	6月以内	9月以内	1年以内	1年3月以内	1年6月以内	1年9月以内	2年以内	2年3月以内	2年6月以内	2年9月以内	3年以内		3年を超える
総数	1,484	-	1	33	118	655	358	165	81	31	9	13	10	5	3	1	1	7.0
自白	798	-	-	26	107	465	156	26	11	5	-	-	1	1	-	-	-	5.2
否認	686	-	1	7	11	190	202	139	70	26	9	13	9	4	3	1	1	9.1

(注) 刑事通常第一審事件票による実人員である。

図表38 第1回公判期日前の鑑定(法50条)の有無別の平均審理期間及び平均公判前整理手続期間

	平均審理期間(月)	公判前整理手続期間の平均(月)	公判前整理手続以外に要した期間の平均(月)
鑑定あり	17.1	(82.5) 14.1	(17.5) 3.0
鑑定なし	8.8	(75.0) 6.6	(25.0) 2.2



(注) 1 刑事通常第一審事件票による。
2 () は平均審理期間に対する割合 (%) である。

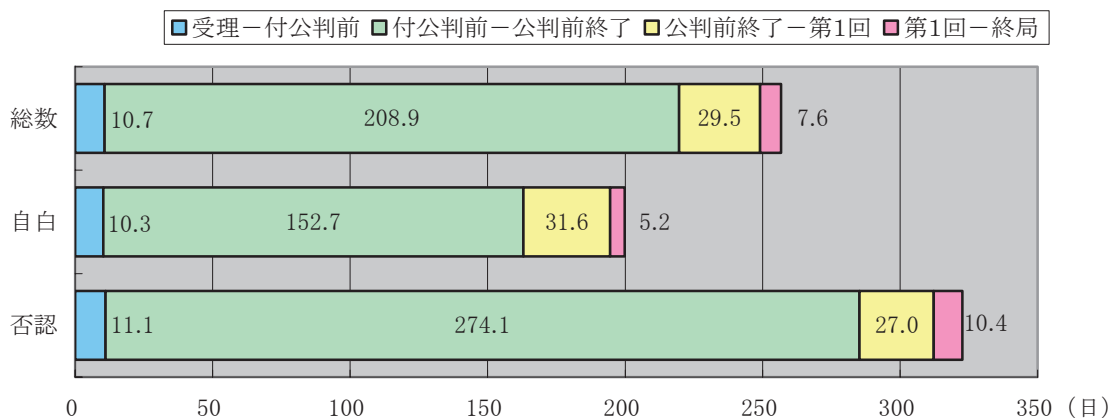
図表39 開廷回数別の平均審理期間及び平均公判前整理手続期間

	判決 人員	平均審理 期間(月)	うち公判前 整理手続期 間の平均 (月)	うち公判前 整理手続以 外に要した 期間の平均 (月)
総数	1,500	9.3	(75.3) 7.0	(24.7) 2.3
2回以下	27	4.6	(65.2) 3.0	(34.8) 1.6
3回	518	6.4	(71.9) 4.6	(28.1) 1.8
4回	456	8.6	(75.6) 6.5	(24.4) 2.1
5回以上	499	13.1	(77.1) 10.1	(22.9) 3.0

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 ()は平均審理期間に対する割合(%)である。
 3 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後、
 裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。

裁判員裁判対象事件の受理から終局までの期間を、受理から公判前整理手続に付す旨の決定まで、同決定から同手続終了まで、同手続終了から第1回公判まで及び第1回公判から終局までの審理段階ごとの平均日数（自白・否認別）を算出し、グラフ化したものが、図表40である。

図表40 審理段階別の平均日数（自白否認別）



(注) 1 刑事通常第一審事件票による。
 2 公判を開いた後に公判前整理手続等に付された事件（例：裁判員裁判対象事件以外の事件係属中に裁判員裁判対象事件の追起訴があった事件等）を除く。
 3 公判前整理手続を一旦終了し、裁判員候補者の呼出しを行った後、第1回公判期日の前に、公判前整理手続を再開したものがある。
 4 実日数の平均によるため、図表35、36の平均審理期間及び平均公判前整理手続期間とは一致しない。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

(3) 審理期間・開廷回数・実審理期間

自白・否認別の審理期間の平均及び分布状況は、図表4-1のとおりである。また、図表4-2は、自白・否認別の実審理期間の平均及び分布状況である。

図表4-1 自白否認別の審理期間の分布及び平均審理期間

	判決 人員	審 理 期 間							平均審理 期間(月)
		3月 以内	4月 以内	5月 以内	6月 以内	9月 以内	1年 以内	1年を 超える	
総数	1,500	10	84	166	246	500	242	252	9.3
自白	806	8	77	135	181	284	81	40	7.2
否認	694	2	7	31	65	216	161	212	11.7

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後、裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。

図表4-2 実審理期間（第1回公判から終局まで）別の判決人員の分布及び平均実審理期間（自白否認別）

	判決 人員	実 審 理 期 間									平均実審理 期間(日)
		2日	3日	4日	5日	10日 以内	20日 以内	30日 以内	40日 以内	40日を 超える	
総数	1,500	10	278	322	177	461	204	28	12	8	7.4
自白	806	9	250	246	98	169	33	-	1	-	5.0
否認	694	1	28	76	79	292	171	28	11	8	10.1

- (注) 1 刑事通常第一審事件票及び刑事局の個別調査による実人員である。
 2 区分審理を行ったものについては、裁判員が参加した審理が行われた期間の合計を実審理期間とした。
 3 裁判官のみで第1回公判を開いた後、裁判員裁判対象事件で追起訴があったため裁判員の参加する合議体で審理されて終局したものについては、裁判員が参加した審理が行われた期間を実審理期間とした。
 4 2及び3以外のものについては、第1回公判から終局までの期間を実審理期間とした。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

開廷回数の各平均及び分布状況（罪名別，自白・否認別，第1回公判期日前の鑑定の有無別）は，図表4-3ないし図表4-5のとおりである（なお，取調べ証人数別の開廷回数分布状況については，図表5-6を参照。）。

図表4-3 開廷回数別の判決人員の分布及び平均開廷回数（罪名別）

	判決人員	開 廷 回 数							平均開廷回数(回)
		2回以下	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上	
総数	1,500	27	518	456	224	106	70	99	4.5
殺人	323	-	87	112	56	27	18	23	4.8
強盗致傷	322	7	123	94	57	21	7	13	4.1
傷害致死	180	2	37	68	28	14	11	20	4.9
現住建造物等放火	134	2	56	50	14	8	2	2	3.9
覚せい剤取締法違反	127	7	55	34	13	8	3	7	4.2
(準)強姦致死傷	101	3	50	27	12	2	5	2	3.9
(準)強制わいせつ致死傷	80	3	45	19	7	3	1	2	3.7
麻薬特例法違反	46	1	11	11	6	3	5	9	5.5
強盗致死(強盗殺人)	34	-	3	11	8	1	4	7	6.2
強盗強姦	34	-	9	6	6	2	5	6	5.6
偽造通貨行使	24	2	15	4	1	2	-	-	3.4
危険運転致死	23	-	8	6	4	2	-	3	4.7
保護責任者遺棄致死	11	-	2	3	2	2	2	-	4.9
逮捕監禁致死	11	-	1	1	2	4	3	-	5.6
傷害	9	-	2	3	2	2	-	-	4.4
集団(準)強姦致死傷	7	-	3	2	2	-	-	-	3.9
組織的犯罪処罰法違反	5	-	-	-	-	-	-	5	14.0
強盗	4	-	1	1	1	-	1	-	4.8
通貨偽造	3	-	3	-	-	-	-	-	3.0
(準)強姦	3	-	-	1	-	1	1	-	5.7
自殺関与及び同意殺人	3	-	-	2	1	-	-	-	4.3
集団(準)強姦	2	-	-	-	-	2	-	-	6.0
麻薬取締法違反	2	-	1	-	-	1	-	-	4.5
非現住建造物等放火	1	-	-	-	-	-	1	-	7.0
建造物等以外放火	1	-	-	-	-	-	1	-	7.0
建造物等延焼	1	-	1	-	-	-	-	-	3.0
激発物破裂	1	-	1	-	-	-	-	-	3.0
自動車運転過失致死	1	-	-	-	-	1	-	-	6.0
窃盗	1	-	1	-	-	-	-	-	3.0
常習累犯強盗	1	-	1	-	-	-	-	-	3.0
恐喝	1	-	-	-	1	-	-	-	5.0
爆発物取締罰則違反	1	-	1	-	-	-	-	-	3.0
銃刀法違反	1	-	1	-	-	-	-	-	3.0
関税法違反	1	-	-	1	-	-	-	-	4.0
道路交通法違反	1	-	-	-	1	-	-	-	5.0

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。

2 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後，裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。

図表4-4 開廷回数別の判決人員の分布及び平均開廷回数（自白否認別）

	判決人員	開 廷 回 数							平均開廷回数(回)
		2回以下	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上	
総数	1,500	27	518	456	224	106	70	99	4.5
自白	806	25	420	237	74	28	12	10	3.7
否認	694	2	98	219	150	78	58	89	5.5

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後、裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。

図表4-5 開廷回数別の判決人員の分布及び平均開廷回数（第1回公判期日前の鑑定（法50条）の有無別）

	判決人員	開 廷 回 数							平均開廷回数(回)
		2回以下	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上	
総数	1,500	27	518	456	224	106	70	99	4.5
鑑定あり	79	-	8	18	16	14	12	11	5.9
鑑定なし	1,421	27	510	438	208	92	58	88	4.4

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後、裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。

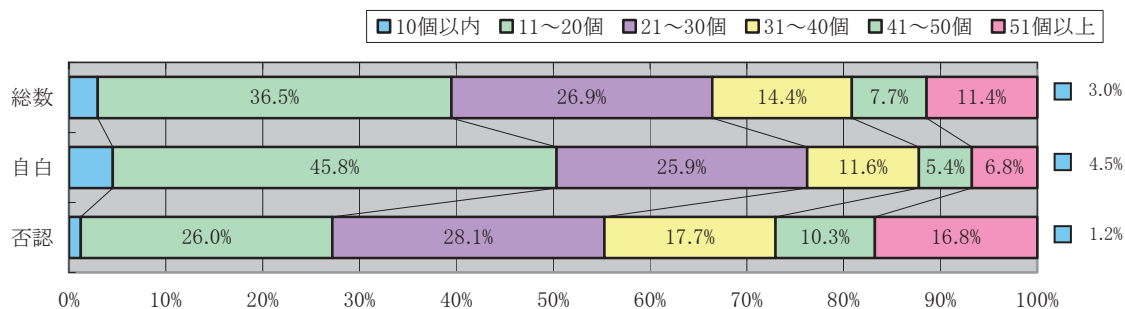
(4) 公判審理（証拠調べ）

取調べ証拠数，取調べ証人数，罪名別の取調べ証人数，自白・否認別の証人尋問の合計時間並びに取調べ証人1人当たりの証人尋問時間，被告人質問時間の各平均及び分布状況を自白・否認別にみると，図表46ないし図表51のとおりである（なお，平均取調べ証人数の法定合議事件全体との比較については，図表57を参照。）。

図表46 取調べ証拠数別の終局件数の分布及び平均取調べ証拠数（自白否認別）

	終局 件数	取 調 べ 証 拠 数						平均取調べ 証拠数 (個)
		10個以内	11～20個	21～30個	31～40個	41～50個	51個以上	
総数	1,415	42	517	381	204	109	162	30.8
自白	753	34	345	195	87	41	51	25.5
否認	662	8	172	186	117	68	111	36.8

(注) 1 刑事局への個別報告による件数建てであり，概数である。
2 取調べ証拠数には証人を含む。

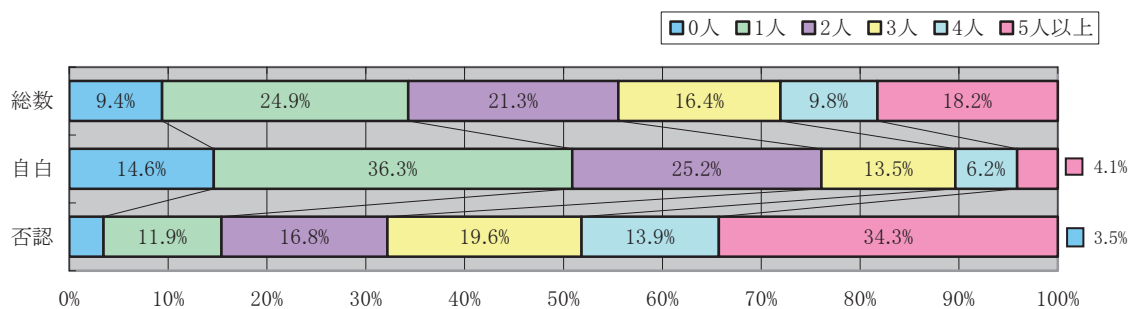


第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

図表4-7 取調べ証人数別の終局件数の分布及び平均取調べ証人数（自白否認別）

	終局件数							平均取調べ証人数 (人)
	総数	取調べ証人数						
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	
総数	1,415	133	352	301	232	139	258	3.0
自白	753	110	273	190	102	47	31	1.8
否認	662	23	79	111	130	92	227	4.3

(注) 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。



第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

図表4-8 取調べ証人数別の終局件数の分布及び平均取調べ証人数（罪名別）

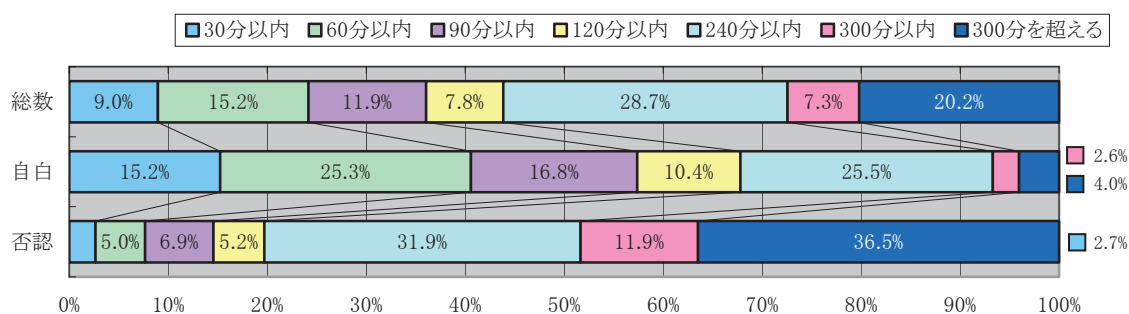
	終 局 件 数							平均取調べ証人数 (人)
	総数	取 調 べ 証 人 数						
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	
総数	1,415	133	352	301	232	139	258	3.0
殺人	318	17	60	59	68	38	76	3.6
強盗致傷	288	21	80	64	54	31	38	2.5
傷害致死	156	11	16	33	32	18	46	3.9
現住建造物等放火	133	13	30	39	24	14	13	2.4
覚せい剤取締法違反	124	28	32	28	16	10	10	2.1
(準)強姦致死傷	101	15	40	21	11	5	9	1.9
(準)強制わいせつ致死傷	80	10	33	20	8	3	6	1.9
麻薬特例法違反	37	2	13	9	4	2	7	2.9
強盗強姦	34	6	7	5	4	4	8	4.1
強盗致死(強盗殺人)	33	3	6	7	1	5	11	4.8
危険運転致死	23	2	4	2	3	3	9	4.7
偽造通貨行使	22	4	8	8	2	-	-	1.4
保護責任者遺棄致死	9	-	2	-	1	3	3	3.9
傷害	9	-	1	3	2	-	3	4.1
逮捕監禁致死	8	-	-	2	-	-	6	5.1
集団(準)強姦致死傷	7	-	7	-	-	-	-	1.0
組織的犯罪処罰法違反	5	-	-	-	-	-	5	9.0
強盗	4	-	2	-	1	-	1	3.5
通貨偽造	3	-	3	-	-	-	-	1.0
(準)強姦	3	-	1	1	-	-	1	5.0
自殺関与及び同意殺人	3	-	-	-	-	2	1	4.3
麻薬取締法違反	2	-	1	-	-	1	-	2.5
非現住建造物等放火	1	-	1	-	-	-	-	1.0
建造物等以外放火	1	-	-	-	-	-	1	6.0
建造物等延焼	1	-	1	-	-	-	-	1.0
激発物破裂	1	-	-	-	1	-	-	3.0
集団(準)強姦	1	-	-	-	-	-	1	5.0
自動車運転過失致死	1	-	-	-	-	-	1	9.0
窃盗	1	-	1	-	-	-	-	1.0
常習累犯強盗	1	-	1	-	-	-	-	1.0
恐喝	1	-	-	-	-	-	1	5.0
爆発物取締罰則違反	1	1	-	-	-	-	-	-
銃刀法違反	1	-	1	-	-	-	-	1.0
関税法違反	1	-	1	-	-	-	-	1.0
道路交通法違反	1	-	-	-	-	-	1	5.0

(注) 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表49 証人尋問時間別の終局件数の分布及び平均証人尋問時間（自白否認別）

	終局 件数	証 人 尋 問 時 間							平均証人尋 問時間(分)
		30分 以内	60分 以内	90分 以内	120分 以内	240分 以内	300分 以内	300分 を超える	
総数	1,282	115	195	152	100	368	93	259	215.0
自白	643	98	163	108	67	164	17	26	105.4
否認	639	17	32	44	33	204	76	233	325.2

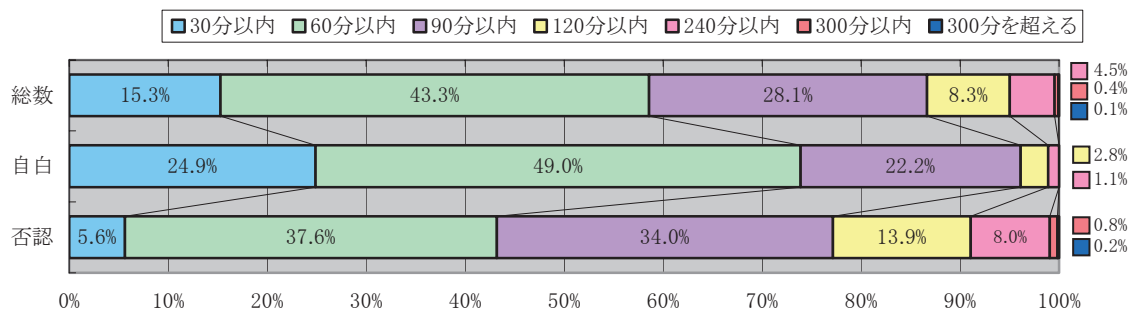
(注) 1 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。
2 証人尋問を実施していないものを除く。



図表50 証人1人当たりの証人尋問時間別の終局件数の分布及び証人1人当たりの平均証人尋問時間（自白否認別）

	終局 件数	証 人 1 人 当 た り の 証 人 尋 問 時 間							証人1人当た りの平均証人 尋問時間 (分)
		30分 以内	60分 以内	90分 以内	120分 以内	240分 以内	300分 以内	300分 を超える	
総数	1,282	196	555	360	107	58	5	1	61.1
自白	643	160	315	143	18	7	-	-	49.2
否認	639	36	240	217	89	51	5	1	73.1

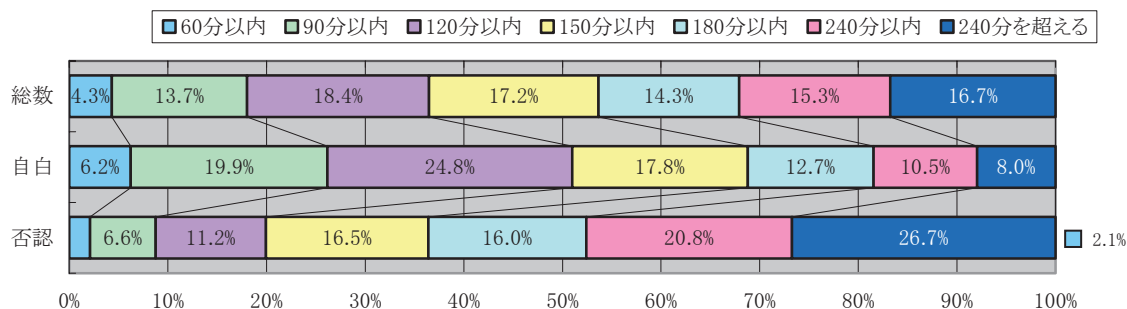
(注) 1 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。
2 証人尋問を実施していないものを除く。



図表5-1 被告人質問時間別の終局件数の分布及び平均被告人質問時間（自白否認別）

	終局 件数	被 告 人 質 問 時 間							平均被告人 質問時間 (分)
		60分 以内	90分 以内	120分 以内	150分 以内	180分 以内	240分 以内	240分 を超える	
総数	1,415	61	194	261	243	202	217	237	176.7
自白	753	47	150	187	134	96	79	60	141.7
否認	662	14	44	74	109	106	138	177	216.6

(注) 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。



取調べ証人数、証人尋問時間及び被告人質問時間の各分布状況（開廷時間の分布別）は、図表5-2ないし図表5-4のとおりである（なお、開廷時間の平均及び法定合議事件全体との比較については、図表5-7を参照。）。

図表5-2 開廷時間別・取調べ証人数別の終局件数の分布

	終局 件数	取 調 べ 証 人 数						
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	
総数	1,415	133	352	301	232	139	258	
開 廷 時 間	5時間以内	220	53	121	37	6	3	-
	6時間以内	155	23	74	40	14	4	-
	7時間以内	147	24	49	49	17	6	2
	8時間以内	124	8	30	46	28	10	2
	9時間以内	125	13	28	38	30	11	5
	10時間以内	96	6	21	19	27	14	9
	11時間以内	89	1	9	23	21	15	20
	12時間以内	67	2	3	12	21	17	12
	12時間を超える	392	3	17	37	68	59	208

(注) 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表5-3 開廷時間別・証人尋問時間別の終局件数の分布

	終局 件数	証 人 尋 問 時 間						開廷時間に 占める証人 尋問時間の 割合(%)	
		30分 以内	60分 以内	90分 以内	120分 以内	240分 以内	240分 を超える		
総数	1,282	115	195	152	100	368	352	31.3	
開 廷 時 間	5時間以内	167	59	71	29	5	3	-	18.0
	6時間以内	132	22	42	36	15	17	-	21.0
	7時間以内	123	15	27	30	16	35	-	23.0
	8時間以内	116	5	16	16	26	51	2	25.9
	9時間以内	112	5	15	13	14	61	4	25.8
	10時間以内	90	4	9	10	9	47	11	26.8
	11時間以内	88	2	7	6	4	41	28	30.4
	12時間以内	65	1	1	2	2	30	29	32.2
	12時間を超える	389	2	7	10	9	83	278	36.0

- (注) 1 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。
 2 「開廷時間に占める証人尋問時間の割合」は、開廷時間の各区分における終局件数の証人尋問時間の合計を、同件数の開廷時間の合計で除す方法により算出した。
 3 証人尋問を実施していないものを除く。

図表5-4 開廷時間別・被告人質問時間別の終局件数の分布

	終局 件数	被 告 人 質 問 時 間							開廷時間に 占める被告人 質問時間の 割合(%)	
		60分 以内	90分 以内	120分 以内	150分 以内	180分 以内	240分 以内	240分 を超える		
総数	1,415	61	194	261	243	202	217	237	27.0	
開 廷 時 間	5時間以内	220	40	86	66	19	7	2	-	35.4
	6時間以内	155	8	46	48	36	12	4	1	33.1
	7時間以内	147	4	20	42	47	23	10	1	32.1
	8時間以内	124	-	18	35	26	28	14	3	30.6
	9時間以内	125	2	11	22	33	23	24	10	30.6
	10時間以内	96	2	3	11	23	26	21	10	29.1
	11時間以内	89	1	3	13	21	19	23	9	26.7
	12時間以内	67	-	1	6	12	14	21	13	28.1
	12時間を超える	392	4	6	18	26	50	98	190	23.5

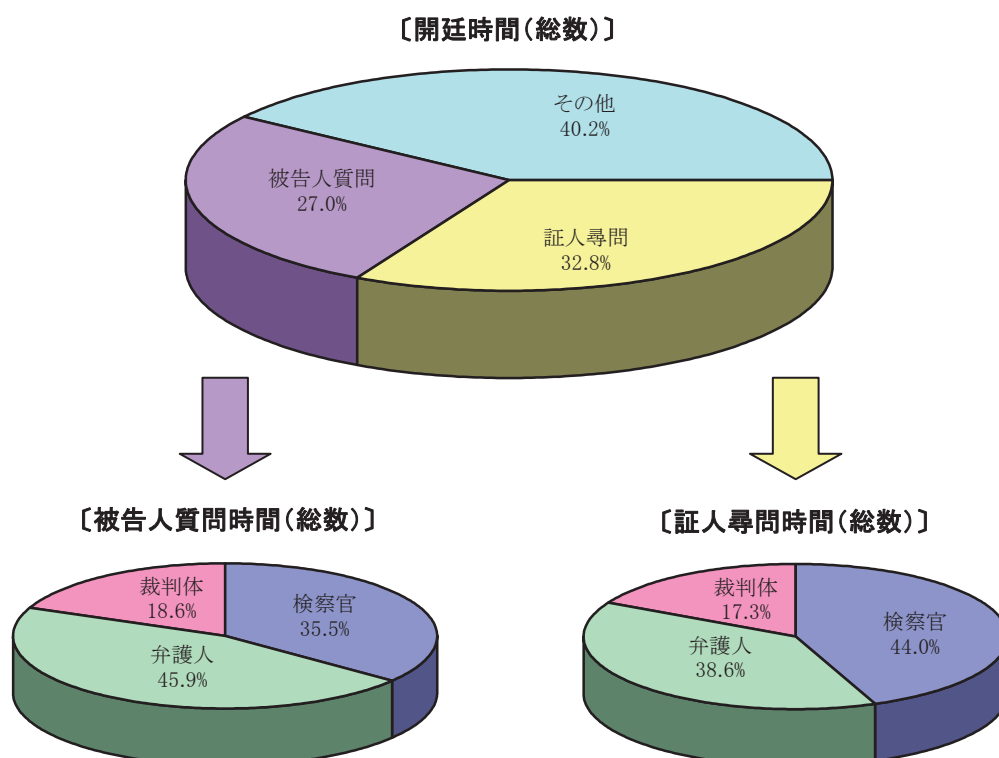
- (注) 1 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。
 2 「開廷時間に占める被告人質問時間の割合」は、開廷時間の各区分における終局件数の被告人質問時間の合計を、同件数の開廷時間の合計で除す方法により算出した。

平均証人尋問時間及び平均被告人質問時間について、検察官、弁護士及び裁判体の各尋問（質問）時間の平均を自白・否認別にみると、図表55のとおりであり、下の円グラフは、開廷時間に占めるそれぞれの時間の割合をグラフ化したものである。また、開廷回数の分布別に取調べ証人数の分布状況をみると、図表56のとおりである。

図表55 平均証人尋問時間及び平均被告人質問時間の内訳（自白否認別）

	平均開廷時間(分)	平均証人尋問時間(分)	平均証人尋問時間(分)			平均被告人質問時間(分)	平均被告人質問時間(分)		
			うち検察官	うち弁護士	うち裁判体		うち検察官	うち弁護士	うち裁判体
総数	655.4	215.0	94.6	83.1	37.2	176.7	62.8	81.1	32.9
自白	438.9	105.4	41.2	42.9	21.3	141.7	49.6	63.7	28.4
否認	901.8	325.2	148.5	123.5	53.3	216.6	77.9	100.8	37.9

- (注) 1 刑事局への個別報告による概数である。
 2 「平均証人尋問時間」には、証人尋問を実施していないものを除く。



- (注) 証人尋問を実施した終局件数と終局総件数が異なるため、本グラフの平均開廷時間に占める平均証人尋問時間の割合は、図表53と一致しない。

図表56 取調べ証人数別の終局件数の分布（開廷回数別）

	終局 件数	取 調 べ 証 人 数					
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上
総数	1,415	133	352	301	232	139	258
開 廷 回 数	2回以内	27	10	13	4	-	-
	3回	530	85	234	145	46	18
	4回	439	34	83	117	112	56
	5回	197	4	18	23	49	40
	6回以上	222	-	4	12	25	25

(注) 刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

法定合議事件全体と裁判員裁判対象事件における自白・否認別の平均開廷時間と平均取調べ証人数を比較したものが、図表57である。

図表57 自白否認別の平均開廷時間及び平均取調べ証人数

	平均開廷時間(分)			平均取調べ証人数(人)		
	総数	自白	否認	総数	自白	否認
法定合議事件総数	500.9	301.4	857.0	2.2	1.3	3.9
うち裁判員裁判対象事件	683.4	465.6	943.0	3.0	1.8	4.4

- (注) 1 刑事通常第一審事件票によるため開廷時間には公判準備に要した時間は含まない。
 2 終局時の罪名が裁判所法26条2項2号に該当する事件のうち、有罪人員（一部無罪を含む。）及び無罪人員を掲げた。
 3 図表55は個別報告による概数であり、本表と開廷時間が異なる場合がある。
 4 取調べ証人数は延べ人員で計上する場合があるため図表47とは異なる。

(5) 客観的併合

公訴事実の数ごとにみた証拠調べの状況や、開廷回数、開廷時間の状況（自白・否認別）は、図表58ないし図表61のとおりである。

図表58-1 公訴事実の数別・取調べ証拠数別の終局件数の分布及び平均取調べ証拠数（自白事件）

	終局 件数	取 調 べ 証 拠 数						平均取調べ 証拠数(個)	
		10個以内	11～20個	21～30個	31～40個	41～50個	51個以上		
総数	753	34	345	195	87	41	51	25.5	
公 訴 事 実 の 数	1個	437	30	267	107	17	7	9	19.4
	2個	129	3	47	45	18	5	11	29.0
	3個	70	1	20	22	18	3	6	28.3
	4個	37	-	6	6	10	9	6	36.4
	5個以上	80	-	5	15	24	17	19	45.4

(注) 1 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。
2 取調べ証拠数は、延べ数である。

図表58-2 公訴事実の数別・取調べ証拠数別の終局件数の分布及び平均取調べ証拠数（否認事件）

	終局 件数	取 調 べ 証 拠 数						平均取調べ 証拠数(個)	
		10個以内	11～20個	21～30個	31～40個	41～50個	51個以上		
総数	662	8	172	186	117	68	111	36.8	
公 訴 事 実 の 数	1個	374	4	127	120	62	30	31	30.6
	2個	140	2	28	42	28	17	23	33.0
	3個	60	1	11	14	10	7	17	43.2
	4個	34	1	6	5	7	6	9	43.5
	5個以上	54	-	-	5	10	8	31	77.5

(注) 1 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。
2 取調べ証拠数は、延べ数である。

図表59-1 公訴事実の数別・証人尋問時間及び被告人質問時間の合計別の終局
件数の分布並びに平均時間（自白事件）

	終局 件数	証人尋問時間及び被告人質問時間の合計							平均時間 (分)	
		60分 以内	90分 以内	120分 以内	180分 以内	240分 以内	300分 以内	301分 以上		
総数	753	9	45	85	215	136	104	159	231.7	
公 訴 事 実 の 数	1個	437	4	16	54	124	91	65	83	222.7
	2個	129	3	9	14	32	20	19	32	256.7
	3個	70	1	12	7	23	10	7	10	192.4
	4個	37	-	2	3	12	5	4	11	273.9
	5個以上	80	1	6	7	24	10	9	23	255.4

(注) 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表59-2 公訴事実の数別・証人尋問時間及び被告人質問時間の合計別の終局
件数の分布並びに平均時間（否認事件）

	終局 件数	証人尋問時間及び被告人質問時間の合計							平均時間 (分)	
		60分 以内	90分 以内	120分 以内	180分 以内	240分 以内	300分 以内	301分 以上		
総数	662	4	-	11	44	56	68	479	530.5	
公 訴 事 実 の 数	1個	374	3	-	6	33	27	42	263	486.9
	2個	140	-	-	-	7	14	11	108	505.5
	3個	60	-	-	2	1	7	10	40	545.8
	4個	34	-	-	1	2	2	3	26	658.9
	5個以上	54	1	-	2	1	6	2	42	799.4

(注) 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表60-1 公訴事実の数別・開廷回数別の終局件数の分布及び平均開廷回数
(自白事件)

		終局 件数	開 廷 回 数					平均開廷 回数(回)
			2回以下	3回	4回	5回	6回以上	
総数		753	25	430	225	47	26	3.5
公 訴 事 実 の 数	1個	437	19	279	117	16	6	3.3
	2個	129	3	69	40	10	7	3.7
	3個	70	1	40	25	4	-	3.5
	4個	37	1	13	15	5	3	3.9
	5個以上	80	1	29	28	12	10	4.1

(注) 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表60-2 公訴事実の数別・開廷回数別の終局件数の分布及び平均開廷回数
(否認事件)

		終局 件数	開 廷 回 数					平均開廷 回数(回)
			2回以下	3回	4回	5回	6回以上	
総数		662	2	100	214	150	196	5.3
公 訴 事 実 の 数	1個	374	1	67	138	82	86	4.9
	2個	140	1	15	42	37	45	5.2
	3個	60	-	9	19	11	21	5.6
	4個	34	-	5	6	9	14	6.1
	5個以上	54	-	4	9	11	30	7.6

(注) 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表6 1 - 1 公訴事実の数別・開廷時間別の終局件数の分布及び平均開廷時間
(自白事件)

		終局 件数	開 廷 時 間					平均開廷 時間(分)	
			360分 以内	420分 以内	480分 以内	540分 以内	600分 以内		601分 以上
総数		753	331	115	81	70	45	111	438.9
公 訴 事 実 の 数	1個	437	226	62	46	35	24	44	399.3
	2個	129	53	19	17	12	5	23	472.6
	3個	70	27	15	7	7	6	8	423.5
	4個	37	8	3	3	8	4	11	562.5
	5個以上	80	17	16	8	8	6	25	557.0

(注) 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

図表6 1 - 2 公訴事実の数別・開廷時間別の終局件数の分布及び平均開廷時間
(否認事件)

		終局 件数	開 廷 時 間					平均開廷 時間(分)	
			360分 以内	420分 以内	480分 以内	540分 以内	600分 以内		601分 以上
総数		662	44	32	43	55	51	437	901.8
公 訴 事 実 の 数	1個	374	31	22	25	35	25	236	802.4
	2個	140	6	5	10	9	15	95	896.3
	3個	60	2	3	3	6	5	41	941.6
	4個	34	3	1	2	2	2	24	1101.4
	5個以上	54	2	1	3	3	4	41	1434.3

(注) 終局件数は、刑事局への個別報告による件数建てであり、概数である。

(6) 区分審理

裁判員法71条の区分審理による審理がされた事件の審判の数ごとの内訳は図表62のとおりであり、区分審理決定の有無別にみた開廷回数及び開廷時間の平均や分布の状況は、図表63及び図表64のとおりである。

区分審理決定のあった判決人員15人について、区分事件審判の実施状況をみると、裁判官のみで構成する合議体により審理及び裁判がされたもの（以下「裁判官のみの合議体」という。）は15個（うち自白8個、否認7個）、裁判官3人と裁判員6人で構成する合議体により審理及び裁判がされたもの（以下「裁判員を含む合議体」という。）は1個（否認）であった^{*11}。また、区分事件審判による部分判決の結果は、すべて有罪であった。

図表62 区分審理決定のあった判決人員及び審判の数ごとの内訳

判決人員	審 判 の 数				
	2個	3個	4個	5個	6個以上
15	14	1	-	-	-

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
2 審判の数は、区分事件審判の数と併合事件審判の数の合計である。

図表63 開廷回数別の判決人員の分布及び平均開廷回数（区分審理決定の有無別）

	判決人員	開 廷 回 数							平均開廷回数(回)
		2回以内	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上	
総数	1,500	27	518	456	224	106	70	99	4.5
区分審理決定あり	15	-	-	-	3	2	3	7	8.1
区分審理決定なし	1,485	27	518	456	221	104	67	92	4.5

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
2 「区分審理決定あり」の開廷回数は、区分事件審判及び併合事件審判の各開廷回数を合算したものである。

*11 区分事件審判における公判が開かれた平均合計時間は、裁判官のみの合議体では自白が163.1分、否認が415.6分、裁判員を含む合議体では497.0分（否認）であり、平均開廷回数は、裁判官のみの合議体では自白が2.3回、否認が4.4回、裁判員を含む合議体では4.0回（否認）であった。

図表64 開廷時間別の判決人員の分布及び平均開廷時間（区分審理決定の有無別）

	判決人員	開 廷 時 間							平均開廷時間(分)
		360分以内	480分以内	600分以内	720分以内	840分以内	960分以内	960分を超える	
総数	1,500	374	276	233	165	110	89	253	683.4
区分審理決定あり	15	-	3	2	-	2	-	8	1,054.1
区分審理決定なし	1,485	374	273	231	165	108	89	245	679.6

- (注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 開廷時間には公判準備に要した時間は含まない。
 3 「区分審理決定あり」の開廷時間は、区分事件審判及び併合事件審判の各開廷時間を合算したものである。
 4 図表55は個別報告による概数であり、本表と開廷時間が異なる場合がある。

(7) 被害者参加・刑事損害賠償命令

裁判員裁判対象事件における罪名別の参加申出をした被害者等の数及び被害者等の参加の態様等は、図表65のとおりである。

なお、刑事損害賠償命令申立てがあった判決人員は、111人である。

図表65 裁判員裁判における被害者参加の状況（罪名別）

	判決人員	参加を申し出た被害者等					
			うち参加を許可された被害者等	うち証人尋問をした被害者等	うち被告人質問をした被害者等	うち刑訴法316条の38の意見陳述をした被害者等	うち刑訴法292条の2の意見陳述をした被害者等
総数	190	330	327	81	179	211	218
殺人	68	117	115	24	70	87	72
傷害致死	42	80	80	22	48	54	49
(準)強姦致死傷	19	28	28	9	13	17	18
強盗致死(強盗殺人)	15	31	31	8	17	14	16
強盗致傷	12	15	14	3	5	5	12
危険運転致死	10	18	18	5	13	14	13
(準)強制わいせつ致死傷	5	6	6	4	4	4	4
集団(準)強姦致死傷	5	7	7	3	4	4	7
強盗強姦	5	10	10	3	1	7	10
現住建造物等放火	2	4	4	-	-	-	4
(準)強姦	1	1	1	-	1	1	-
傷害	1	1	1	-	1	1	1
自動車運転過失致死	1	6	6	-	-	1	6
保護責任者遺棄致死	1	2	2	-	2	2	2
逮捕監禁致死	1	1	1	-	-	-	1
組織的犯罪処罰法違反	1	1	1	-	-	-	1
道路交通法違反	1	2	2	-	-	-	2

(注) 1 刑事通常第一審事件票による延べ人員（判決人員は実人員）である。
 2 被害者等の数は、延べ人員である。

4 評議

評議時間の平均及び分布状況（自白・否認別，罪名別及び開廷回数別）は，図表66ないし図表68のとおりである。なお，評議時間は，最終評議のみの時間であり，中間評議の時間を含まない。

図表66 評議時間別の判決人員の分布及び平均評議時間（自白否認別）

	判決人員	評 議 時 間							平均評議時間(分)
		240分以内	360分以内	480分以内	600分以内	720分以内	840分以内	840分を超える	
総数	1,500	56	249	345	256	199	157	238	619.8
自白	806	47	206	247	147	78	53	28	475.2
否認	694	9	43	98	109	121	104	210	787.7

(注) 刑事通常第一審事件票による実人員である。

図表67 評議時間別の判決人員の分布及び平均評議時間（罪名別）

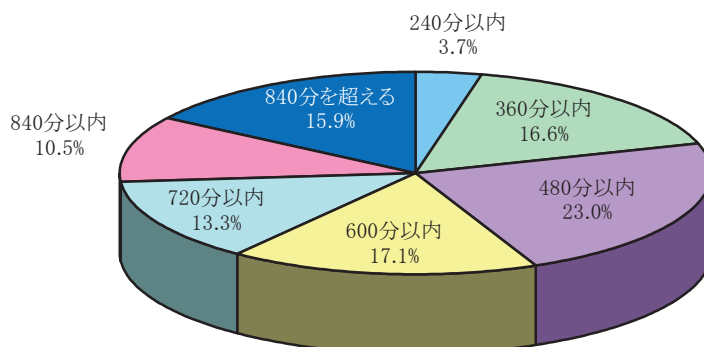
	判決人員	評 議 時 間							平均評議時間(分)
		240分以内	360分以内	480分以内	600分以内	720分以内	840分以内	840分を超える	
総数	1,500	56	249	345	256	199	157	238	619.8
殺人	323	10	53	62	54	38	37	69	668.2
強盗致傷	322	15	54	73	70	45	30	35	557.6
傷害致死	180	5	21	44	28	26	21	35	693.6
現住建造物等放火	134	8	20	46	20	14	13	13	543.1
覚せい剤取締法違反	127	1	24	26	19	26	14	17	598.1
(準)強姦致死傷	101	7	19	25	15	15	8	12	562.8
(準)強制わいせつ致死傷	80	5	23	21	13	8	6	4	482.7
麻薬特例法違反	46	1	9	9	11	5	4	7	612.3
強盗致死(強盗殺人)	34	-	3	4	7	6	5	9	879.1
強盗強姦	34	1	5	8	9	1	4	6	660.3
偽造通貨行使	24	2	9	7	-	3	1	2	451.7
危険運転致死	23	-	2	6	2	4	3	6	843.3
保護責任者遺棄致死	11	-	-	1	2	1	2	5	869.5
逮捕監禁致死	11	-	-	1	-	2	5	3	858.1
傷害	9	-	1	1	3	2	2	-	588.9
集団(準)強姦致死傷	7	1	1	4	-	1	-	-	421.1
組織的犯罪処罰法違反	5	-	-	-	-	-	-	5	1536.0
強盗	4	-	1	2	-	-	-	1	522.0
通貨偽造	3	-	2	1	-	-	-	-	343.3
(準)強姦	3	-	-	1	1	-	-	1	773.3
自殺関与及び同意殺人	3	-	-	-	1	1	1	-	668.3
集団(準)強姦	2	-	-	-	-	-	-	2	1010.0
麻薬取締法違反	2	-	-	-	-	-	1	1	830.0
非現住建造物等放火	1	-	-	-	-	1	-	-	630.0
建造物等以外放火	1	-	-	-	-	-	-	1	1220.0
建造物等延焼	1	-	1	-	-	-	-	-	285.0
激発物破裂	1	-	1	-	-	-	-	-	300.0
自動車運転過失致死	1	-	-	-	-	-	-	1	1020.0
窃盗	1	-	-	-	1	-	-	-	580.0
常習累犯強盗	1	-	-	1	-	-	-	-	475.0
恐喝	1	-	-	-	-	-	-	1	1000.0
爆発物取締罰則違反	1	-	-	1	-	-	-	-	480.0
銃刀法違反	1	-	-	1	-	-	-	-	370.0
関税法違反	1	-	-	-	-	-	-	1	960.0
道路交通法違反	1	-	-	-	-	-	-	1	1135.0

(注) 刑事通常第一審事件票による実人員である。

図表68 評議時間別の判決人員の分布及び平均評議時間（開廷回数別）

	判決人員	評 議 時 間							平均評議時間(分)	
		240分以内	360分以内	480分以内	600分以内	720分以内	840分以内	840分を超える		
総数	1,500	56	249	345	256	199	157	238	619.8	
開 廷 回 数	2回以下	27	5	10	8	3	1	-	-	367.2
	3回	518	41	141	169	87	45	25	10	445.5
	4回	456	8	77	100	92	82	51	46	573.7
	5回	224	2	18	44	47	33	33	47	669.2
	6回以上	275	-	3	24	27	38	48	135	1,009.0

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 裁判員裁判対象事件以外の事件について公判を開いた後、裁判員裁判対象事件が併合されたものを含む。



5 裁判の結果

罪名別、自白・否認別に控訴人員をみると、図表69のとおりであり、庁別・罪名別の終局区分及び罪名別の量刑分布状況は、図表70及び図表71のとおりである。

図表69 罪名別・自白否認別の判決人員及び控訴人員

	判決人員	うち 自 白		うち 否 認	
			うち控訴		うち控訴
総数	1,500	806	163	694	365
殺人	323	151	23	172	93
強盗致傷	322	195	46	127	72
傷害致死	180	99	25	81	49
現住建造物等放火	134	82	10	52	14
覚せい剤取締法違反	127	48	8	79	45
(準)強姦致死傷	101	56	15	45	28
(準)強制わいせつ致死傷	80	60	7	20	8
麻薬特例法違反	46	29	12	17	7
強盗致死(強盗殺人)	34	13	4	21	14
強盗強姦	34	16	4	18	8
偽造通貨行使	24	18	1	6	1
危険運転致死	23	9	2	14	5
保護責任者遺棄致死	11	7	2	4	3
逮捕監禁致死	11	4	-	7	3
傷害	9	-	-	9	4
集団(準)強姦致死傷	7	7	1	-	-
組織的犯罪処罰法違反	5	-	-	5	4
強盗	4	2	-	2	1
通貨偽造	3	3	-	-	-
(準)強姦	3	2	-	1	1
自殺関与及び同意殺人	3	-	-	3	1
集団(準)強姦	2	-	-	2	2
麻薬取締法違反	2	1	-	1	-
非現住建造物等放火	1	-	-	1	-
建造物等以外放火	1	-	-	1	-
建造物等延焼	1	-	-	1	1
激発物破裂	1	1	1	-	-
自動車運転過失致死	1	-	-	1	-
窃盗	1	-	-	1	-
常習累犯強盗	1	1	-	-	-
恐喝	1	-	-	1	-
爆発物取締罰則違反	1	1	1	-	-
銃刀法違反	1	1	1	-	-
関税法違反	1	-	-	1	1
道路交通法違反	1	-	-	1	-

(注) 刑事通常第一審事件票による実人員である。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

図表70-1 庁別・終局区分別の終局人員

庁名	終局人員	有罪	一部無罪・ 有罪	無罪	家裁へ移送	その他
総数	1,526	1,483	5	9	3	26
東京地裁本庁	132	128	-	2	-	2
東京地裁立川支部	48	48	-	-	-	-
横浜地裁本庁	81	80	-	-	-	1
横浜地裁小田原支部	14	14	-	-	-	-
さいたま地裁本庁	79	76	1	-	-	2
千葉地裁本庁	166	161	2	1	-	2
水戸地裁本庁	29	29	-	-	-	-
宇都宮地裁本庁	26	26	-	-	-	-
前橋地裁本庁	29	27	-	-	-	2
静岡地裁本庁	10	10	-	-	-	-
静岡地裁沼津支部	16	16	-	-	-	-
静岡地裁浜松支部	11	11	-	-	-	-
甲府地裁本庁	16	16	-	-	-	-
長野地裁本庁	12	12	-	-	-	-
長野地裁松本支部	6	6	-	-	-	-
新潟地裁本庁	16	15	-	1	-	-
大阪地裁本庁	123	119	1	1	-	2
大阪地裁堺支部	41	40	1	-	-	-
京都地裁本庁	29	25	-	1	-	3
神戸地裁本庁	38	35	-	1	-	2
神戸地裁姫路支部	9	9	-	-	-	-
奈良地裁本庁	18	16	-	2	-	-
大津地裁本庁	14	14	-	-	-	-
和歌山地裁本庁	7	7	-	-	-	-
名古屋地裁本庁	73	71	-	-	-	2
名古屋地裁岡崎支部	25	25	-	-	-	-
津地裁本庁	24	24	-	-	-	-
岐阜地裁本庁	19	19	-	-	-	-
福井地裁本庁	10	10	-	-	-	-
金沢地裁本庁	11	11	-	-	-	-
富山地裁本庁	9	9	-	-	-	-
広島地裁本庁	36	33	-	-	-	3
山口地裁本庁	15	14	-	-	-	1
岡山地裁本庁	21	21	-	-	-	-
鳥取地裁本庁	2	2	-	-	-	-
松江地裁本庁	4	4	-	-	-	-
福岡地裁本庁	46	44	-	-	-	2
福岡地裁小倉支部	11	11	-	-	-	-
佐賀地裁本庁	10	10	-	-	-	-
長崎地裁本庁	11	11	-	-	-	-
大分地裁本庁	12	12	-	-	-	-
熊本地裁本庁	18	18	-	-	-	-
鹿児島地裁本庁	20	19	-	-	-	1
宮崎地裁本庁	12	12	-	-	-	-
那覇地裁本庁	13	13	-	-	-	-
仙台地裁本庁	21	21	-	-	-	-
福島地裁本庁	4	4	-	-	-	-
福島地裁郡山支部	7	7	-	-	-	-
山形地裁本庁	5	5	-	-	-	-
盛岡地裁本庁	6	6	-	-	-	-
秋田地裁本庁	7	6	-	-	-	1
青森地裁本庁	13	13	-	-	-	-
札幌地裁本庁	34	32	-	-	-	2
函館地裁本庁	6	6	-	-	-	-
旭川地裁本庁	4	4	-	-	-	-
釧路地裁本庁	10	10	-	-	-	-
高松地裁本庁	16	15	-	-	-	1
徳島地裁本庁	7	7	-	-	-	-
高知地裁本庁	4	4	-	-	-	-
松山地裁本庁	10	10	-	-	-	-

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
2 終局区分の「その他」は、公訴棄却、移送等である。

図表70-2 罪名別・終局区分別の終局人員

罪名	終局人員	有罪	有罪・一部無罪	無罪	家裁へ移送	その他
総数	1,526	1,483	5	9	3	26
強盗致傷	328	317	2	1	2	6
殺人	324	321	-	2	-	1
傷害致死	181	179	-	-	1	1
現住建造物等放火	137	134	-	-	-	3
覚せい剤取締法違反	130	121	2	4	-	3
(準)強姦致死傷	106	101	-	-	-	5
(準)強制わいせつ致死傷	82	80	-	-	-	2
麻薬特例法違反	46	46	-	-	-	-
強盗強姦	35	34	-	-	-	1
強盗致死(強盗殺人)	34	34	-	-	-	-
偽造通貨行使	24	24	-	-	-	-
危険運転致死	23	23	-	-	-	-
保護責任者遺棄致死	11	10	-	1	-	-
逮捕監禁致死	11	11	-	-	-	-
傷害	9	9	-	-	-	-
集団(準)強姦致死傷	8	7	-	-	-	1
組織的犯罪処罰法違反	5	4	-	1	-	-
通貨偽造	4	3	-	-	-	1
強盗	4	4	-	-	-	-
(準)強姦	3	3	-	-	-	-
自殺関与及び同意殺人	3	3	-	-	-	-
集団(準)強姦	2	2	-	-	-	-
爆発物取締罰則違反	2	1	-	-	-	1
銃刀法違反	2	1	-	-	-	1
麻薬取締法違反	2	2	-	-	-	-
非現住建造物等放火	1	1	-	-	-	-
建造物等以外放火	1	1	-	-	-	-
建造物等延焼	1	1	-	-	-	-
激発物破裂	1	1	-	-	-	-
自動車運転過失致死	1	1	-	-	-	-
窃盗	1	1	-	-	-	-
常習累犯強盗	1	1	-	-	-	-
恐喝	1	1	-	-	-	-
関税法違反	1	1	-	-	-	-
道路交通法違反	1	-	1	-	-	-

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。

2 「その他」は、公訴棄却、移送等である。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

図表7-1 罪名別・量刑分布別（終局区分別を含む）の終局人員

	終局人員	終局区分別																	控訴申立人員	控訴率(%)				
		有罪															無罪	家裁へ移送			その他			
		有罪人員	死刑	無期懲役	有期懲役										罰金	刑の免除								
					30年以下	25年以下	20年以下	15年以下	10年以下	7年以下	5年以下	3年以下												
総数	1,526	1,488	3	39	21	18	73	157	300	292	245	110	228	116	1	1	9	3	26	528	35.3			
強盗致傷	328	319	-	-	-	-	4	24	76	83	71	20	41	25	-	-	1	2	6	118	36.9			
殺人	324	321	2	20	9	4	41	48	38	41	35	22	61	19	-	-	2	-	1	116	35.9			
傷害致死	181	179	-	-	-	-	18	40	44	43	21	13	1	-	-	-	1	1	74	41.3				
現住建造物等放火	137	134	-	-	-	1	2	5	7	23	30	16	50	33	-	-	-	-	3	24	17.9			
覚せい剤取締法違反	130	123	-	-	-	-	2	18	69	30	3	-	1	-	-	-	4	-	3	53	41.7			
(準)強姦致死傷	106	101	-	-	4	3	7	19	22	17	21	4	4	3	-	-	-	-	5	43	42.6			
(準)強制わいせつ致死傷	82	80	-	-	-	-	1	-	6	13	19	12	29	21	-	-	-	-	2	15	18.8			
麻薬特例法違反	46	46	-	-	-	-	3	13	21	9	-	-	-	-	-	-	-	-	19	41.3				
強盗強姦	35	34	-	2	6	7	4	8	5	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	12	35.3			
強盗致死(強盗殺人)	34	34	1	17	1	3	5	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	52.9			
偽造通貨行使	24	24	-	-	-	-	-	-	1	-	1	5	17	10	-	-	-	-	-	2	8.3			
危険運転致死	23	23	-	-	-	-	1	3	12	4	3	-	-	-	-	-	-	-	7	30.4				
保護責任者遺棄致死	11	10	-	-	-	-	-	-	2	4	3	1	-	-	-	-	1	-	5	45.5				
逮捕監禁致死	11	11	-	-	-	-	-	2	2	2	2	3	-	-	-	-	-	-	3	27.3				
傷害	9	9	-	-	-	-	-	1	-	2	2	4	1	-	-	-	-	-	4	44.4				
集団(準)強姦致死傷	8	7	-	-	-	-	3	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	14.3			
組織的犯罪処罰法違反	5	4	-	-	-	-	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	4	80.0				
通貨偽造	4	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	-	-	-	1	-	-			
強盗	4	4	-	-	-	-	1	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	25.0			
(準)強姦	3	3	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	33.3				
自殺関与及び同意殺人	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	1	33.3			
集団(準)強姦	2	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	100.0				
爆発物取締罰則違反	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0			
銃刀法違反	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0			
麻薬取締法違反	2	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
非現住建造物等放火	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
建造物等以外放火	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-			
建造物等延焼	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	100.0			
激発物破裂	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	100.0			
自動車運転過失致死	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
窃盗	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-			
常習累犯強盗	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
恐喝	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-			
関税法違反	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	100.0			
道路交通法違反	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-			

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
 2 「その他」は、公訴棄却、移送等である。
 3 禁錮刑の終局人員はない。

6 控訴

裁判員裁判による判決に対し、控訴を申し立てた人員につき、第一審の結果ごとの控訴理由及び控訴審結果の分布状況をみると、図表72及び図表73のとおりであり、終局人員に占める破棄人員の割合及び破棄理由別人員の分布状況をみると、図表74のとおりである（ただし、いずれも控訴審終局時を基準として作成する刑事控訴事件票に基づくデータであることを留意を要する。）。

また、平成20年及び平成21年の裁判員裁判対象罪名の事件と平成22年から平成24年までの裁判員裁判対象事件における第一審受理から控訴審終局までの審理期間のデータを参考添付した。

図表72 第一審結果別の控訴理由の分布（控訴審終局分）

第一審の結果	控訴審 終局 人員 総数	被 告 人 側							検 察 官							(参考) 第一審 終局 人員
		控訴審 終局人 員	刑訴法 377・ 378条	訴訟手 続の法 令違 反・ 法令適 用の誤 り	量刑不 当	事実の 誤認	判決後 の情状	その他	控訴審 終局人 員	刑訴法 377・ 378条	訴訟手 続の法 令違 反・ 法令適 用の誤 り	量刑不 当	事実の 誤認	判決後 の情状	その他	
総数	504	498	17	101	377	308	61	2	9	-	3	2	7	-	-	1,526
死刑	4	4	1	4	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
無期懲役	19	19	1	5	15	14	4	-	-	-	-	-	-	-	-	39
有 期 懲 役	30年以下	10	10	1	2	8	9	-	-	1	-	-	1	-	-	21
	25年以下	12	12	-	1	12	5	-	-	1	-	1	1	1	-	18
	20年以下	52	52	1	14	41	40	7	-	-	-	-	-	-	-	73
	15年以下	81	81	1	12	63	49	11	-	-	-	-	-	-	-	157
	10年以下	126	126	5	23	85	85	16	-	-	-	-	-	-	-	300
	7年以下	91	91	2	11	71	50	6	1	-	-	-	-	-	-	292
	5年以下	73	73	3	22	57	43	15	-	1	-	1	-	-	-	245
	3年以下	30	30	2	7	21	12	2	1	-	-	-	-	-	-	110
うち 執行猶予	4	4	1	2	1	4	-	1	-	-	-	-	-	-	228	
罰金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
刑の免除	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
無罪	6	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	6	-	-	9
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26

- (注) 1 刑事通常第一審事件票及び刑事控訴事件票による実人員である。
 2 控訴理由が複数ある場合には、各欄に重複して計上した。
 3 控訴の申立てが被告人側、検察官双方からされた場合には、各欄の「控訴審終局人員」に重複して計上した。
 4 控訴理由の「その他」は、刑の廃止・変更、大赦等である。
 5 控訴趣意書提出前取下げ等の理由で判明しなかった場合は掲げていない。ただし、控訴審終局人員総数には計上した。

図表 7 3 第一審結果別の控訴審結果の分布

第一審の結果	控訴審終局人員	控訴審の結果							上告申立人員	第一審終局人員 (参考)	
		控訴棄却	破棄差戻	に3よ 97 るも 1の 刑訴 法	破棄自判	に3よ 97 るも 1の 刑訴 法	取下げ	その他			
総数	504	422	4	4	23	3	50	5	198	1,526	
死刑	4	4	-	-	-	-	-	-	4	3	
無期懲役	19	16	-	-	-	-	2	1	12	39	
有期懲役	30年以下	10	8	1	1	-	-	1	-	7	21
	25年以下	12	12	-	-	-	-	-	-	5	18
	20年以下	52	48	-	-	1	-	3	-	26	73
	15年以下	81	69	-	-	4	-	8	-	33	157
	10年以下	126	106	-	-	5	-	14	1	47	300
	7年以下	91	72	2	2	4	-	13	-	30	292
	5年以下	73	59	-	-	7	2	7	-	20	245
	3年以下	30	25	-	-	1	-	2	2	12	110
うち執行猶予	4	4	-	-	-	-	-	-	3	228	
罰金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
刑の免除	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
無罪	6	3	1	1	1	1	-	1	2	9	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	

(注) 1 刑事通常第一審事件票及び刑事控訴事件票による実人員である。

2 「上告申立人員」には、上告申立後、記録送付前に上告取下げがあった人員を含む。

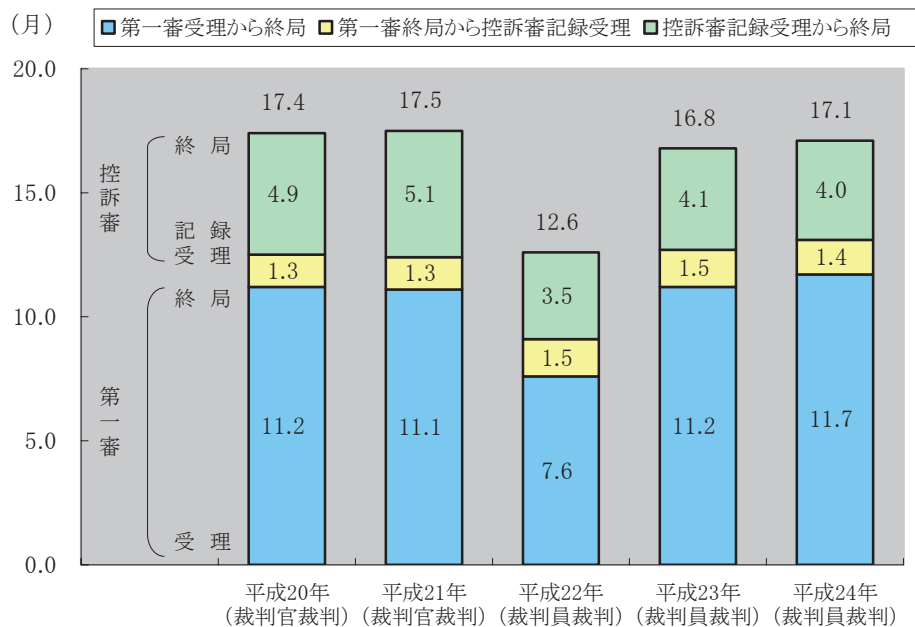
図表74 終局人員に占める破棄人員の割合及び破棄理由別人員の分布

	破棄人員
終局人員	504
破棄人員	27
(破棄率(%))	(0.1)
絶対的控訴理由(刑事訴訟法377条・378条)	-
訴訟手続の法令違反(刑事訴訟法379条)	1
法令適用の誤り(刑事訴訟法380条)	2
量刑不当(刑事訴訟法381条)	-
事実誤認(刑事訴訟法382条)	4
判決後の情状(刑事訴訟法393条2項)	20
その他	-

- (注) 1 刑事控訴事件票による実人員である。
 2 破棄理由が2以上の項目に該当する場合は、それぞれに計上した。よって、破棄理由欄の合計と破棄人員は一致しない場合がある。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

(参考) 控訴審における終局人員の審級別平均審理期間の推移



- (注) 1 刑事控訴事件票による。
- 2 控訴審における終局人員のうち、処断罪名などが現住建造物等放火、通貨偽造、偽造通貨行使、(準)強制わいせつ致死傷、(準)強姦致死傷、集団(準)強姦致死傷、殺人、傷害致死、危険運転致死、身代金拐取、拐取者身代金取得等、強盗致傷、強盗致死(強盗殺人)、強盗強姦及び強盗強姦致死の15罪名のものに限る。
- 3 終局人員は、平成22年(215人)、平成23年(452人)及び平成24年(396人)は第一審において裁判員の参加する合議体により審理及び裁判がされた人員、平成20年(702人)及び平成21年(618人)は第一審において裁判官のみの合議体により審理及び裁判がされた人員である。

7 上告

第一審が裁判員裁判の控訴審判決に対する上告審の終局人員につき、控訴審の結果ごとの上告理由及び上告審結果の分布状況は、図表75及び図表76のとおりである。

また、平成20年及び平成21年の裁判員裁判対象罪名の事件と平成22年から平成24年までの裁判員裁判対象事件における第一審受理から上告審終局までの審理期間のデータを参考添付した。

図表75 控訴審結果別の上告理由の分布（上告審終局分）

控訴審の結果	上告審終局人員総数	被告人側							検察官側						双方								
		憲法違反	判例違反	法令違反	量刑不当	事実誤認	再審事由	その他	憲法違反	判例違反	法令違反	量刑不当	事実誤認	再審事由	その他	憲法違反	判例違反	法令違反	量刑不当	事実誤認	再審事由	その他	
総数	230	61	40	84	133	139	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
控訴棄却	220	56	35	79	127	135	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
破棄自判	死刑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	有期懲役	30年以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		25年以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		20年以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		15年以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10年以下	2	2	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		7年以下	3	-	1	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		5年以下	3	1	1	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		3年以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち執行猶予	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無罪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
破棄差戻し・移送	2	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
公訴棄却	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(注) 1 刑事上告事件票による実人員である。
 2 上告理由が複数ある場合には、各欄にそれぞれ重複して計上した。
 3 上告理由の「その他」は、刑の廃止・変更、大赦等である。
 4 上告趣意書提出前取下げ等の理由で判明しなかった場合は掲げていない。ただし、上告審終局人員には計上した。

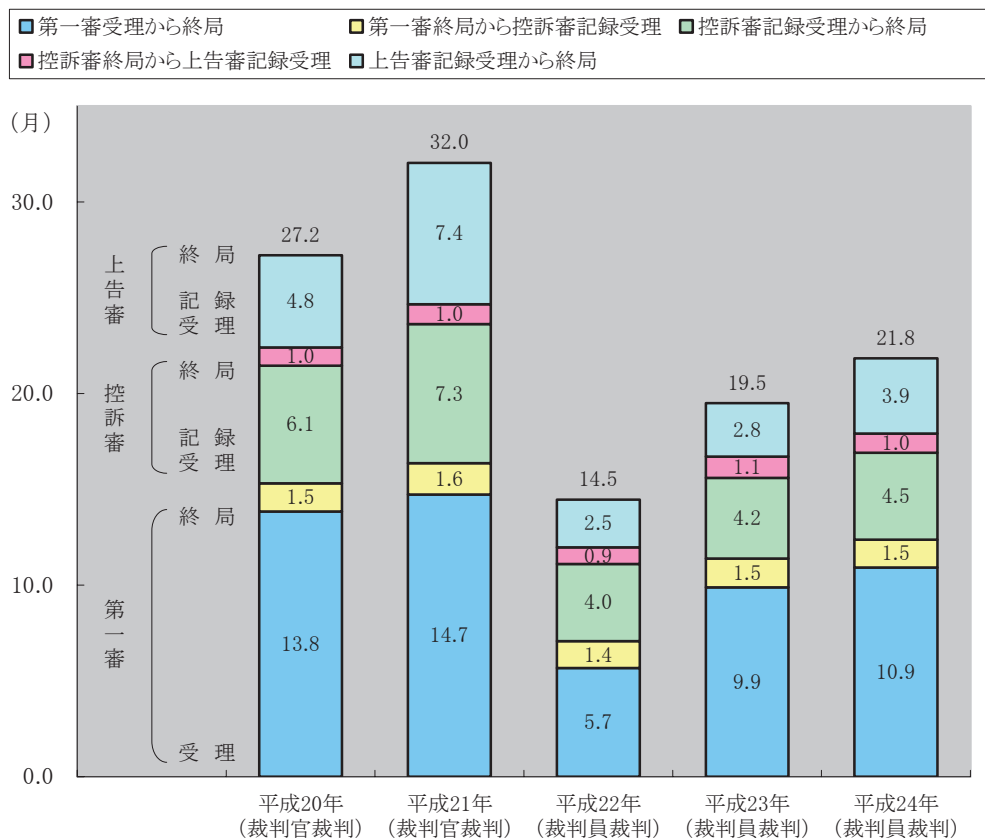
図表 7 6 控訴審結果別の上告審結果の分布

控訴審の結果	上告審 終局 人員	上告棄却		破棄		公訴棄却	取下げ	
		判決	決定	差戻し ・移送	自判			
総数	230	7	193	1	1	-	28	
控訴棄却	220	7	186	-	-	-	27	
破棄 自判	死刑	-	-	-	-	-	-	
	無期	-	-	-	-	-	-	
	有期懲役	30年以下	-	-	-	-	-	-
		25年以下	-	-	-	-	-	-
		20年以下	-	-	-	-	-	-
		15年以下	-	-	-	-	-	-
		10年以下	2	-	1	-	1	-
		7年以下	3	-	2	-	-	1
		5年以下	3	-	3	-	-	-
		3年以下	-	-	-	-	-	-
		うち執行猶予	-	-	-	-	-	-
無罪	-	-	-	-	-	-		
破棄差戻し・移送	2	-	1	1	-	-		
公訴棄却	-	-	-	-	-	-		

(注) 刑事上告事件票による実人員である。

第3 裁判員の参加する公判手続の実施状況について

(参考) 上告審における終局人員の審級別平均審理期間の推移



- (注) 1 刑事上告事件票による。
 2 上告審における終局人員のうち、処断罪名などが現住建造物等放火、通貨偽造、偽造通貨行使、(準)強制わいせつ致死傷、(準)強姦致死傷、集団(準)強姦致死傷、殺人、傷害致死、危険運転致死、身代金拐取、拐取者身代金取得等、強盗致傷、強盗致死(強盗殺人)、強盗強姦及び強盗強姦致死の15罪名のものに限る。
 3 終局人員は、平成22年(裁判員裁判)(33人)、平成23年(裁判員裁判)(154人)及び平成24年(裁判員裁判)(173人)は第一審において裁判員の参加する合議体により審理及び裁判がされた人員、平成20年(裁判官裁判)(259人)及び平成21年(裁判官裁判)(277人)は第一審において裁判官のみの合議体により審理及び裁判がされた人員である。

第4 その他

本項では、第2「裁判員等の選任に関する実施状況について」及び第3「裁判員の参加する公判手続の実施状況について」のいずれにも関係し、又はいずれにも該当しない統計数値を示すこととした。

具体的には、1) 弁護人の状況、2) 外国人事件の状況、3) 手話通訳人等の状況に関する統計数値を示し、最後に、4) 裁判員等に対する制裁の状況を示した。

弁護人の選任状況を罪名別にみると、図表77のとおりである。

図表77 弁護人の私選国選別の判決人員（罪名別）

	判決人員	私選弁護人が 選任された人員	国選弁護人が 選任された人員
総数	1,500	286 (19.1)	1,300 (86.7)
殺人	323	57 (17.6)	284 (87.9)
強盗致傷	322	47 (14.6)	288 (89.4)
傷害致死	180	53 (29.4)	139 (77.2)
現住建造物等放火	134	14 (10.4)	124 (92.5)
覚せい剤取締法違反	127	17 (13.4)	118 (92.9)
(準)強姦致死傷	101	18 (17.8)	92 (91.1)
(準)強制わいせつ致死傷	80	14 (17.5)	69 (86.3)
麻薬特例法違反	46	28 (60.9)	26 (56.5)
強盗致死(強盗殺人)	34	4 (11.8)	33 (97.1)
強盗強姦	34	4 (11.8)	32 (94.1)
偽造通貨行使	24	3 (12.5)	24 (100.0)
危険運転致死	23	6 (26.1)	19 (82.6)
保護責任者遺棄致死	11	1 (9.1)	10 (90.9)
逮捕監禁致死	11	8 (72.7)	3 (27.3)
傷害	9	1 (11.1)	8 (88.9)
集団(準)強姦致死傷	7	-	7 (100.0)
組織的犯罪処罰法違反	5	5 (100.0)	-
強盗	4	1 (25.0)	3 (75.0)
通貨偽造	3	-	3 (100.0)
(準)強姦	3	-	3 (100.0)
自殺関与及び同意殺人	3	-	3 (100.0)
集団(準)強姦	2	1 (50.0)	2 (100.0)
麻薬取締法違反	2	-	2 (100.0)
非現住建造物等放火	1	-	1 (100.0)
建造物等以外放火	1	-	1 (100.0)
建造物等延焼	1	-	1 (100.0)
激発物破裂	1	-	1 (100.0)
自動車運転過失致死	1	1 (100.0)	-
窃盗	1	-	1 (100.0)
常習累犯強盗	1	-	1 (100.0)
恐喝	1	1 (100.0)	-
爆発物取締罰則違反	1	1 (100.0)	-
銃刀法違反	1	-	1 (100.0)
関税法違反	1	-	1 (100.0)
道路交通法違反	1	1 (100.0)	-

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。

2 同一被告人に対し私選弁護人及び国選弁護人が選任された場合には重複して計上した。

3 () は判決人員に対する割合 (%) である。

通訳翻訳人の付いた外国人の被告人につき、主要罪名別及び言語別に判決人員数をみると、図表78及び図表79のとおりである。

図表78 罪名別の通訳翻訳人の付いた外国人の判決人員

	判決人員	うち通訳翻訳人の付いた外国人	
		人数	割合(%)
総数	1,500	145	(9.7)
殺人	323	9	(2.8)
強盗致傷	322	16	(5.0)
傷害致死	180	4	(2.2)
現住建造物等放火	134	2	(1.5)
覚せい剤取締法違反	127	95	(74.8)
(準)強姦致死傷	101	2	(2.0)
(準)強制わいせつ致死傷	80	3	(3.8)
麻薬特例法違反	46	8	(17.4)
強盗致死(強盗殺人)	34	-	
強盗強姦	34	-	
偽造通貨行使	24	3	(12.5)
危険運転致死	23	-	
保護責任者遺棄致死	11	-	
逮捕監禁致死	11	-	
傷害	9	-	
集団(準)強姦致死傷	7	-	
組織的犯罪処罰法違反	5	-	
強盗	4	-	
通貨偽造	3	-	
(準)強姦	3	-	
自殺関与及び同意殺人	3	-	
集団(準)強姦	2	-	
麻薬取締法違反	2	2	(100.0)
非現住建造物等放火	1	-	
建造物等以外放火	1	-	
建造物等延焼	1	-	
激発物破裂	1	-	
自動車運転過失致死	1	-	
窃盗	1	-	
常習累犯強盗	1	-	
恐喝	1	-	
爆発物取締罰則違反	1	-	
銃刀法違反	1	-	
関税法違反	1	1	(100.0)
道路交通法違反	1	-	

(注) 1 刑事通常第一審事件票による実人員である。
2 () は判決人員に対する割合(%)である。

図表79 言語別の通訳翻訳人の付いた外国人の判決人員

	判決 人員
総数	145
中国語	20
北京語	13
広東語	6
台湾語	1
英語	45
スペイン語	16
ポルトガル語	9
ペルシャ語	7
韓国・朝鮮語	6
ドイツ語	6
フィリピン(タガログ)語	5
フランス語	5
ベンガル語	4
チェコ語	3
ヒンディー語	2
ロシア語	2
ラトビア語	2
イタリア語	1
ウルドゥー語	1
シンハラ語	1
マレー語	1
トルコ語	1
セブ(ビサイヤ)語	1
ポーランド語	1
ブルガリア語	1
フィンランド語	1
ハンガリー語	1
ノルウェー語	1
セルビア語	1
スウェーデン語	1

(注) 刑事通常第一審事件票による実人員である。

被告人に対し、手話通訳人等を付した人員は、図表80のとおりである。

図表80 手話通訳人等の付いた被告人の判決人員

手話通訳人等の付いた被告人の判決人員	2
--------------------	---

(注) 刑事通常第一審事件票による実人員である。

裁判員候補者及び裁判員等に対し、手話通訳、要約筆記、点字翻訳を要したとして報告がされた状況は、図表81のとおりであり、障害のある裁判員候補者及び裁判員等に対し、何らかの対応を行ったとして報告がされた事件は37件あった。

図表81 手話通訳・要約筆記・点字翻訳を要した裁判員候補者、裁判員等の員数

	選任手続期日に出席した裁判員候補者	選任された裁判員・補充裁判員
総数	41,526	11,539
うち手話通訳	11	3
うち要約筆記	4	-
うち点字翻訳	3	2

(注) 1 総数のうち選任手続期日に出席した裁判員候補者は、刑事通常第一審事件票による延べ人員である。

2 1以外の人員は、刑事局への個別報告による実人員であり、概数である。

裁判員候補者及び裁判員等に対する制裁を行ったとして報告がされた事件はなかった。

図表82 裁判員法違反事件の処理状況

(該当なし)